

## クラウド・コンピューティングと日本の競争力に関する研究会の開催について

平成 21 年 7 月 22 日  
経 済 産 業 省  
商 務 情 報 政 策 局

### 1. 研究会の背景・目的

- 2000年頃に始まったインターネットを核とする情報革命は、Web2.0へと進化することによって、社会に分散する多数のITユーザーや分散する膨大な知識の結びつきによる新たなイノベーションと様々な形態のコラボレーションを実現した。そして今日、ITの進歩はクラウド・コンピューティングという大きな世界の潮流へと更なる進化を遂げ、企業・個人・政府機関等に、低廉、安全で利便性の高いITパワーを提供し、第二の情報革命ともいふべき大きな変革をもたらしつつある。
- すなわち、クラウド・コンピューティングの発展は、コスト面の利点はもちろん、中小企業・個人が収集・蓄積できる情報を遙かに凌ぐ膨大な情報の適切な利活用による企業経営の高度化や生活の質の向上といった大きなメリットをもたらし、経済活動や社会・文化を革新する可能性を秘めている。
- 一方、世界では、個人向けサービスを中心にクラウド・コンピューティングの活用が始まっており、今後それが進展すれば、『世界のコンピューターは5つに集約される』とも言われている。日本がIT活用における世界のリーダーを目指す上で、全て海外のデータセンターによるクラウド・コンピューティングに依存することは、①ユーザーや知識の結びつきによるイノベーション機会の逸失、②機微な情報の漏洩やアクセスのためのネットワークにトラブルがあった場合の事業継続性の懸念、等の問題が生じる。
- 我が国が持つ、省エネルギー技術・高信頼性技術・情報セキュリティ技術等の技術面での強みや、次世代ネットワーク(NGN)等高い通信品質をもつ通信インフラ、極めて安定した電力インフラ等を活かすことで世界最高のクラウド・コンピューティング基盤を構築することができ、そのようなITインフラを整備することを通じて、日本の経済・社会・文化の競争力に繋げることができる。
- また、電子政府の構築に向けて、「霞ヶ関クラウド構想」「自治体クラウド構想」等の議論が進みつつあるが、クラウド・コンピューティングの活用によって、利用者サイドに立った真の国民利便性、行政の効率化等を実現する必要がある。

- 研究会では、クラウド・コンピューティングに関する世界の潮流を見定め、その進化・発展のための諸課題・論点を整理・検討するとともに、我が国のIT分野における技術等の強みを活かしたクラウド・コンピューティング基盤の実現に向けて国、ユーザー、提供者（データセンター、ITベンダー等）のそれぞれが取り組むべき課題をとりまとめることを目的とし、第一線で活躍している有識者が結集して検討を行う。

## 2. 検討事項

### (1) クラウド・コンピューティングの世界的な潮流の把握

#### 【具体的な問題意識(例)】

- クラウド・コンピューティングにより、経済・社会はどう変わるか。変わるべきか。
- ユーザー（企業、個人、政府等）にとって、クラウド・コンピューティングの利点をどのように活かすことができるか。デメリット（リスク）をどのように低減できるか。
- 特に、ユーザー企業の競争力強化、行政の効率化とサービス充実等の視点から、クラウド・コンピューティングはどのように有効か。

### (2) クラウド・コンピューティングの進化・発展に向けたロードマップの策定

#### 【具体的な問題意識(例)】

- 2020年頃の将来の経済・社会のイメージ、技術・インフラ整備・制度・ビジネスモデル・電子政府等の側面から見て、クラウド・コンピューティングは、今後、どのように進化・発展するのか。
- クラウド・コンピューティングが多様なサービス・コンテンツ提供のプラットフォームとなる中で、情報セキュリティ、プライバシー、信頼性、競争促進等の観点から、どのような制度整備、制度・ルール見直しが必要か。ユーザー、ベンダー、政府等の関係者は、それぞれどのような構造改革に取り組むべきか。

### (3) 我が国の IT分野における技術等の強みを、クラウド・コンピューティングを通じて、我が国の経済・社会・文化の競争力に繋げる戦略方策

#### 【具体的な問題意識(例)】

- 世界に通用し、世界のハブとなるクラウド・コンピューティング基盤・データセンターを整備するために、我が国の省エネルギー技術、情報セキュリティ技術、高信頼技

術など技術の強み、安定した電力供給や高い通信品質などインフラの強みを、どのように活かすべきか。

- クラウド・コンピューティングの利用をユーザーの競争力向上に繋げ、企業機密の漏洩やシステム・ネットワーク停止トラブル等のリスクを軽減するための方策は何か。
- クラウド・コンピューティングを支える IT 産業の競争力向上のために、サーバー・ストレージ機器、データセンター、ネットワーク・インフラ、プラットフォーム、サービス、コンテンツといったレイヤーごとにどのような対応が必要か。

### 3. 議論の進め方と日程

商務情報政策局長が主催する有識者会議として7月中に設置。年内を目途に論点を整理する。

### 4. 構成員

資料2の通り。